



生活経済ジャーナリスト
和泉昭子

日本FP協会CFP認定者。OLからアナウンサーを経て、現職へ。各種メディアで、お金とキャリアに関する情報を発信中。ブログ「Authentic Style」(<http://authentic-style.bonton-international.com/>)もあり

OL economic terms 経済用語事典

“女性労働力”がますます重要な時代に

ドラマ「ハケンの品格」(日本テレビ系)が好調だ。今や派遣社員は、企業になくてはならない存在だが、時間や精神面の拘束が少ない代わりに、手軽な労働力とみなされるリスクがある。

ところが、篠原涼子さん演じる大前春子は、高いスキルを提供して時給3000円をゲットするスーパー派遣社員。どんなに高慢な振る舞いも帳消しにする質の高い仕事ぶりとプロ根性が、ドラマの力ギとなっている。

高視聴率の背景には、女性の働き方が大きく変わったことがあるのだろう。正社員が主流で、派遣やパートは補助的な存在という構図は崩れつつある。これからは女

性のみならず男性も、その時々で自分に合ったワークスタイルを選択する時代となるだろう。

同時に、女性も一生働くのが当たり前な時代がやってくる。少子高齢社会による労働力低下が懸念される中、男性と一部のキャリアウーマンだけで社会を支えるのはムリな話。女性が有効な働き手として、国からアテにされているのは間違いない。

高度成長時代には、男性が外で働き、女性が家庭を守るといった性的役割分担をしたほうが、社会的な効率が高いと考えられていた。そのため、専業主婦に対してさまざまな優遇策がとられてきたが、今後はこうしたメリットは

徐々に薄らいでいこう。既に配偶者特別控除は一部廃止、年金保険料免除の基準についても見直しを検討されている。

正社員に対する賃金体系も大きな転換点に。最近話題になった「ホワイトカラー・エグゼンプション」は、労働時間の概念をなくし、成果に応じた賃金を支払う仕組みだ。国会への法案提出は見送られたものの、厳しい国際競争のもと、成果主義の流れを止めることはできないだろう。

立場はどうあれ、高いスキルや能力を提供するのがプロのお仕事。涼しい顔して「それが何か?」とかわす大前春子を目指し、せつせと自分磨きにいそしもう。

▶この記事に関する意見・問い合わせ シティ編集部☎03(5208)4520